

みらい
すくすく
通信

477号

この通信に掲載の野菜のお届け日

2020 年12月14 日～12月18 日

いつも有機野菜をお買い上げありがとうございます。
毎週、旬の情報をお伝えします。



②新得、宇井農場<後編>～人間を動かすもの

宇井さんが新得で広げた自由の翼、それは「音楽」。

宇井さんの思春期は「豊かな時代」と表される一方、カウンターカルチャー（反発文化）が立ち上がってきた時代でもありました。大量生産、大量消費をある意味で強要する社会から、文化の多様性、反差別、自然保護といった動きが若者から生まれていったのです。宇井さんは当初、レッドツェッペリンやローリングストーンズといった自由なロックミュージックに憧れ、バンド活動を始めていました。ところがその後、カナダのシンガーソングライター、ブルース・コバーンの音楽と出会い、衝撃を受けます。彼は環境問題や人権など、宇井さんが気になり始めたことがらを歌にしていたのです。「自分も社会へのメッセージを歌にのせて発信していきたい。コピーバンドをやってる場合じゃない」

新得での暮らしは、自由を謳歌すべく、夏は農業、冬は音楽活動。自主制作のCDを作り、イベント出演やミニライブを敢行。かくして、巷ではシンガーソングファーマーと呼ばれ始めます。「たう」というユニットで11年間活動後、現在もギタリストの西村ヨッシーさんと「青虫ノッポ」というユニットを組んで道内各地でメッセージを発信しています。宇井さんはギター、ハーモニカ（ブルースハーブ）、そして鍵盤ではなくボタン式のアコーディ

オンを駆使します。代表曲「青虫の歌」は、環境に配慮するオーガニックファーマーの気持ちを、温かなメロディにのせ宇井さんの（あま〜い！）歌声でユーモラスに唄うものです。

宇井さんは高校生のファームステイや海外からの WWOOF との対話を重ねます。「若者やウーファーからは潤いと豊かさをもらっています。なんて文化は違うんだろう、なんて人間は同じなんだろう、と。」大量消費の時代を生きてきて、自分たちが感じてきたことをどう次の世代に手渡していくか、それが生きる意味だと言い切ります。

“創造の喜び”

常識や世間体にとらわれず、自由にイマジネーションを広げ、ゼロから何かを創り出すチカラは、人間にしかできない、人間に与えられた財産。いっぱいお金がなくても、経験がなくても、いやいや電気や水がなくても大丈夫。頼もしい先達が、ここにいるではないですか。無関心に、受動的に生きてはいられなくなった今、私もできることから始めてみよう、宇井さんの野菜、音楽が、そんな思いへと駆り立てます。そして私の創造もまた、次の世代へ手渡していこう。前へ、進もう。

<道東タイムスリップ 完>



北海道有機農協の大きく3つの世代から、第一世代にあたる新得のふたりの農家を紹介してきました。どちらの先達も、己のやりたいことを選択して行動し、それを伝えていくことを重んじているようです。私たちはしっかりとその思いを受け取り、そして野菜を美味しくいただき（笑）、また次の世代へとつなげ、時を前に進めていけたらと思います。宇井農場の宇井宏さんに話を伺います。

▼ クラシックなピエールマリアのアコーディオンが、オーガニックとよく合います

▼ 虫穴をはいでいくと半分以下の安いサイズに



▼ 5000玉のキャベツはほとんど出せなそう…



青虫の歌
作詞 / 作曲 宇井ひろし
～一部抜粋～

青虫と同じ村に住んでいる
でも穴だらけのキャベツは困る
畑のクモよ 助けてくれ
葉っぱの上に 卵がかえる

だけど キャベツと同じ色をした
おまえはなぜか 憎めないやつ
長くのびて 上手に隠れる
これからおまえを つまみに行くぞ

宇井農場の様子や
ライブ情報はこちらから
「農場日誌」
noujyouunissi.blog.jp/

